

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 5 月 10 日

事業所名 みらいさぽーとmoana2(単位1)

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	4	0		個別の訓練ができるようにパーテーションなどの必要備品を購入予定。
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0	・人数にゆとりがある為、ヘルプを回すこともできている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	4	1		・トイレ前(手洗いなどで)が混雑することがある為、誘導のタイミングをずらしたり、トイレ前のスペースに物を置かずに対応します。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	3	0	・設定されている業務は遂行し、会議で振り返りを行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4	2	・外部からの評価に関して、きちんと受け止め改善に努めている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	2	0	・研修の案内を周知し、受けやすい環境を作っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	・情報を共有し支援に当たっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	1	・事業所で作成したツールで評価を行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	1	・ローテーションで当番を決め、それぞれで立案・実行をしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	0	・幼児期に必要な動きや運動のプログラムを入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	1	・事業所と事業所による間に身につけてもらいたい項目を上げ、目標を設定して支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	・個別と集団を組み合わせて支援している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2	0	・事前に会議や朝の申し送りで職員間で共有できるようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	0	・業務に関するものは会議や申し送りでも共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1	0	・日々の出来事を記録し、支援への判断材料としている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1	0	・定期的なモニタリングですり合わせをおこなっている。	

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7	1	0	・その都度確認し取り組むようにしている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0	・児童の状況を把握している職員が参画。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	0	・学校側、もしくは保護者へ事前に行い、トラブル回避に努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2	1	・保護者からの同意を得て必要に応じて行う。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	0	0	・相談員がメインではあるが必要に応じてこちらから行動することもある。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	2	0		・現在機会はないが、保護者への同意をえてから、必要に応じて行います。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	1	・他事業所が案内している研修に参加し、助言や情報を深めるようにしている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	1	0	・他事業所や地域の子ども食堂との交流を図っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	2	5		・現在特に案内等がないため参加できていない。今後参加を検討していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	0	・保護者との良好な関係を築けるように意識している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2	1	・研修を受講している。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	0	・管理者が行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	0	・申し送りの際に、保護者の様子を見ながら相談しやすい、こちら側の姿勢路意識している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	2		・アンケートを取った際に保護者からの要望にも「親子登山」などの提案があった為、今後取り組んでいきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0	・苦情研修を行うなどして取り組んでいる。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	2	0	・事前に翌月の活動予定表を配布し、見通しが持てるようにしている。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0	・個人情報使用同意書にて管理。	

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0	・児童の気持ちを汲み取りながら、自己肯定感を下げないような関わりを持っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	1		・今後行っていきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	1	・救急対応の訓練実施やそれぞれの、マニュアルを作成し、発生を想定した対応策を意識して支援を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	・定期的に避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	0	・事前に児童の健康状態を確認している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	1	・契約時に保護者に説明。該当事案が発生した場合は、速やかに報告をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	0	・疑わしき症状が見られた場合は、病院受診を依頼し指示書を要請している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	0		・ミーティング等で共有している。今後事故防止委員会が先導し対応策を検討していきます。